

17th Oka Symposium

下記の通り第 17 回岡シンポジウムを開催致しますのでご案内申し上げます。

角田秀一郎 松澤淳一 吉川謙一

記

日時：2018 年 12 月 1 日 (土)～2 日 (日)

場所：奈良市北魚屋西町 奈良女子大学理学部数学教室 新 B 棟 4 階 階段教室

プログラム

12 月 1 日 (土)

13:30 - 15:30 辻元 (上智大学)

タイトル：コンパクト・ケーラー多様体上の不変体積形式の変動について
アブストラクト：コンパクト・ケーラー多様体上には様々な不変体積形式が定義されている。本講演では、コンパクト・ケーラー多様体の変形における多重種数の変形不変性を巡って、不変体積形式の変動の多重劣調和性の果たす役割を通じて、多変数関数論において擬凸性が果たす役割を俯瞰したい。

16:00 - 18:00 金銅誠之 (名古屋大学)

タイトル：Enriques 曲面に魅せられて
アブストラクト：Enriques 曲面は 19 世紀の終わりに発見された非有理的な代数曲面である。(複素) Enriques 曲面は、その普遍被覆 (二重被覆) が K3 曲面であり、K3 曲面とその上の固定点を持たない位数 2 の自己同型の組と考えることができるが、独自の面白さを持つ。本講演では Enriques 曲面のモジュライ空間や自己同型群について紹介する。

18:30 - 20:30 夕食会

12 月 2 日 (日)

10:30 - 12:30 荒川知幸 (京都大学数理解析研究所)

タイトル：モーア・立川多様体と 4d/2d 双対性
アブストラクト：最近の素粒子論における 4d/2d 双対性において、4 次元理論のヒッグス枝が対応する 2 次元理論 (頂点作用素代数) の随伴多様体に一致することが予想されている。この講演では、クラス S 理論と呼ばれる四次元理論に関してこの予想を証明し、ヒッグス枝として表れるモーア・立川多様体の頂点作用素代数を用いた構成を与える。

14:00 - 16:00 橋本幸士 (大阪大学)

タイトル：超弦理論における時空創発と深層学習
アブストラクト：超弦理論のこの 20 年間の発展を担ったのは、AdS/CFT 対応と呼ばれる、量子重力理論を定義する双対性であるが、そこでは空間が創発する現象がある。本講演では、深層学習を用い、創発時空について議論を行う。

夕食会の会場は未定ですが、ご参加頂ける方は 11 月 23 日 (金) までに下記にご一報頂ければ幸いです。なお、奈良市周辺のホテルは近年予約が取りにくくなっておりますので、ご注意ください。

奈良市北魚屋西町 奈良女子大学理学部数学教室 松澤淳一
(Phone: 0742-20-3361, e-mail:matsuzawa@cc.nara-wu.ac.jp)

このシンポジウムは一般財団法人数理科学振興会の助成を受けたものです。